

県中域内家庭教育支援者研修会

日時：令和元年12月4日（水）10:20～15:30

場所：郡山市労働福祉会館 中ホール 参加者：33名



【演習の中での参加者との会話】



【ロールプレイの発表】

講話・演習1（10:30～12:00）

「家庭教育についてみんなで考えよう

～いろいろな支援観に触れ、実践に役立てましょう～

桜の聖母短期大学 講師 長谷川 美香 氏

- ◎ はじめに、家庭教育支援を行う上での価値観「支援観」と、自分はどうのように人を見る傾向があるか、どんな長所や強みがあるのかということ知る「自己覚知」について話がありました。
- ◎ 長所や強みを意識する「ストレングス視点」とは、自分の強みを生かすこと、支援する保護者の強みを見つけ、保護者を支援するための足がかりとして活用していくことであり、どちらも大切であることを教えていただきました。
- ◎ 2人組の演習では、はじめに「自分の強み、得意なこと」「家庭支援を漢字一文字で表すと？」について紹介し合い、選んだ漢字について熱く語ったり、情報交換したりする参加者の姿が見られました。
- ◎ 演習では2つの事例から1つを選び、ペアでどのような関わり方をしたらよいか話し合い、親と子の立場で会話をするロールプレイを行いました。最後に代表して2組の参加者に発表をしてもらいました。
- ◎ 参加者のアンケートからは「支援する側も自分自身をよく理解することが重要であることが分かりました。」「実際の場面で使える内容で勉強になりました。」などの感想がありました。

講演・演習2（13:00～15:20）

「子どもに愛が伝わっていますか ～「聞く」「語る」心豊かに生きる四つの条件～

親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子 氏

- ◎ 自己紹介の中で、御自身の我が子とのやりとりでの気付きから親業への取組が始まったこと、我が子とコミュニケーションをとっていく上で言葉の大切さに触れ、正しい言葉を遣うこと、語彙を増やすこと、そして何より言葉を惜しまないことが絶対不可欠であるというお話がありました。また、子どもを一人の人間として尊重すること、親も一人の人間として子どもに正直であることを伝えてくださいました。
- ◎ 講演のはじめに、非行に走る青少年にありがちな四つの共通点は「心の居場所がない」「自尊感情がない」「人生の目標がない」「他者から必要とされてない」であり、これらを「ある」ことにすることで「心豊かに生きる四つの条件」となっていくと解説がありました。
- ◎ 演習では、はじめに2人でペアで「3分間スピーチをやりたくない子どもと親のやりとり」のロールプレイを行いました。「子どもの心を閉ざす聞き方」と「子どもの心を開く聞き方」の2通りの「聞くこと」を交代で体験し、親子それぞれの立場での感想を共有しました。
- ◎ 参加者のアンケートからは、「子どもとのコミュニケーションの方法について実践を交えながら学習し、とても参考になりました。」「今までにない講演でした。能動的な聞き方の大切さを学ぶことができました。」などの感想がありました。



【講演の様子】



【グループワークの様子】